

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 6 区分

【発行日】平成 25 年 1 月 31 日 (2013.1.31)

【公開番号】特開 2011-162245 (P2011-162245A)

【公開日】平成 23 年 8 月 25 日 (2011.8.25)

【年通号数】公開・登録公報 2011-034

【出願番号】特願 2010-28975 (P2010-28975)

【国際特許分類】

**B 6 5 D 30/16 (2006.01)**

**B 6 5 D 33/36 (2006.01)**

【F I】

B 6 5 D 30/16 J

B 6 5 D 33/36

【手続補正書】

【提出日】平成 24 年 12 月 11 日 (2012.12.11)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

少なくとも一方の面に熱接着性樹脂層を備える 2 枚の矩形状の包装フィルムを重ねて周縁部を全周に亘って熱接着することによって形成される袋体内の収納部に、固形物からなる複数の内容物を密閉状態で収納した包装袋であって、

前記袋体の収納部には、複数の内容物とともに所定量の空気が封入されていて、前記袋体の厚み D が、前記収納部に内容物が整列して収納される状態で、少なくとも内容物が自然に起立する状態の高さ H よりも大きく、かつ、内容物の前記高さ H の 1.45 倍よりも小さく設定されており、

熱接着により前記袋体の周縁部に形成された熱シール部は、その強度が純曲げ試験機（クランプ幅 5 cm、シート幅 5 cm）による平均曲げこわさ値で  $1.0 \text{ g} \cdot \text{cm}^2 / \text{cm}$  ~  $3.7 \text{ g} \cdot \text{cm}^2 / \text{cm}$  である包装袋。

【請求項 2】

前記袋体は、腰の強さがループスティフネス値で  $0.5 \text{ g} / 15 \text{ mm}$  幅 ~  $7.0 \text{ g} / 15 \text{ mm}$  幅（ループ長 100 mm）の範囲にある包装フィルムで構成されている請求項 1 に記載の包装袋。

【請求項 3】

前記熱シール部は、そのシール幅が 3 mm ~ 30 mm に設定されている請求項 1 または 2 に記載の包装袋。

【請求項 4】

前記袋体の少なくとも一辺に形成された熱シール部は、前記袋体の外方に向けて部分的に切り欠かれてシール幅が他の領域よりも狭い幅狭領域を有しており、前記袋体は、前記収納部から前記幅狭領域に向けて突き出る個別取出口を備えている請求項 1 ~ 3 のいずれかに記載の包装袋。

【請求項 5】

前記幅狭領域が形成された熱シール部と直交する両側の熱シール部の少なくとも一方には、前記袋体を開封するための第 1 の開封手段および第 2 の開封手段が設けられており、

前記第 1 の開封手段は、熱シール部の前記個別取出口よりも下方にあたる位置に設けら

れているとともに、前記第 2 の開封手段は、熱シール部の前記個別取出部の先端部近傍にあたる位置に設けられている請求項 4 に記載の包装袋。

【請求項 6】

前記第 2 の開封手段は、前記側方の熱シール部に設けられる切り込みと、前記切り込みを始点として前記個別取出部に向かって延びる誘導補助線により構成されている請求項 5 に記載の包装袋。